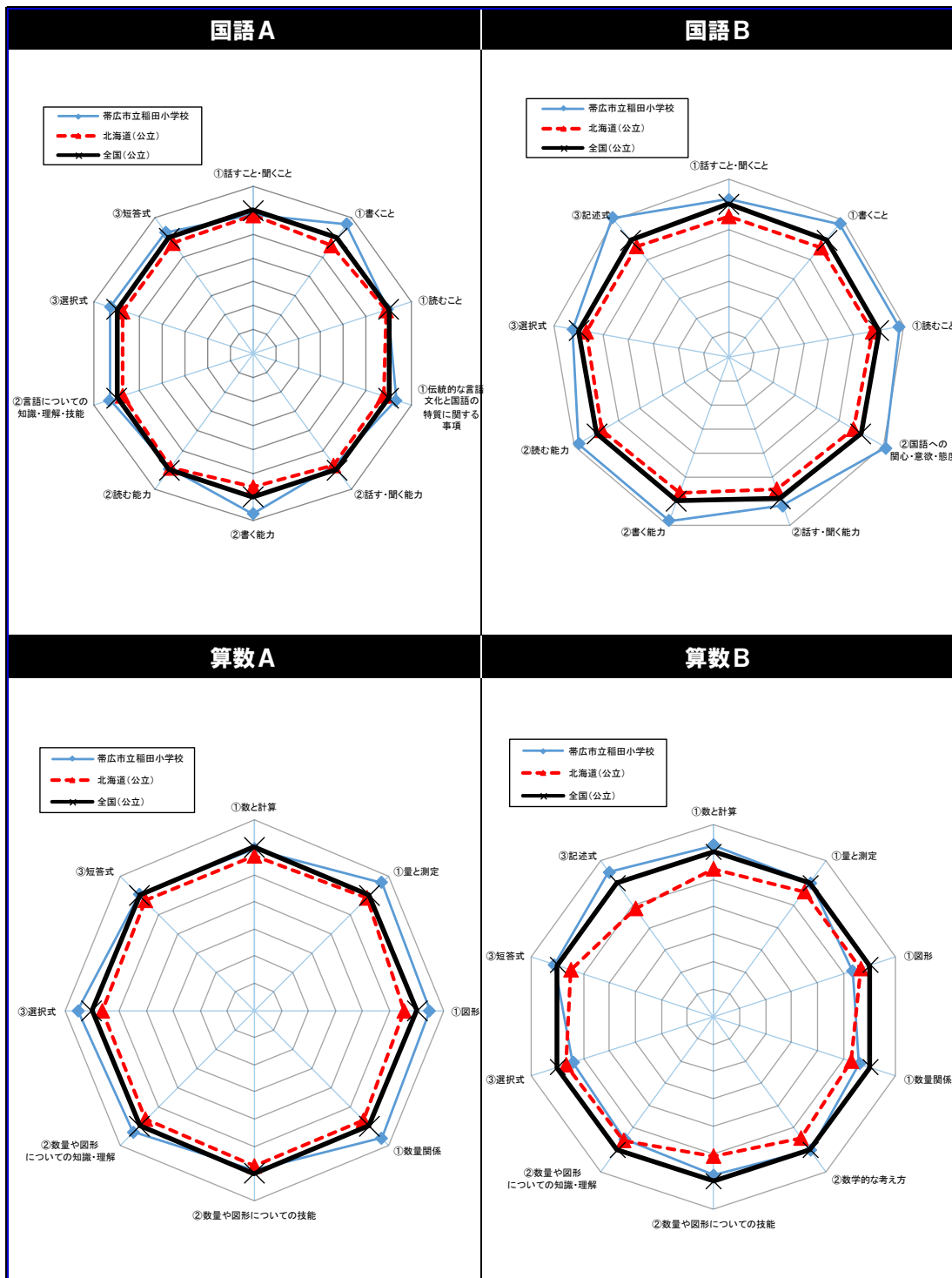


稲田の子

～平成28年度全国学力学習状況調査から その2児童質問紙から～

全国学力学習状況調査には児童質問紙もあり、規範意識や生活習慣等についてたずねる項目があります。ここからは児童質問紙から見える本校の傾向と今後への対策、展望です（裏面）。下は、本調査の国語A、国語B、算数A、算数Bの、全道、全国、本校の調査結果をレーダーチャートでまとめたものです。本校ホームページ（カラー版）にも掲載されますので、こちらもご覧ください。



1、規範意識

			昨年度
(1) 自分にはよいところがあると思う。	稲田82.1	全国76.3	(稲田62.3)
(2) 人の役に立つ人間になりたいと思う。	稲田95.8	全国93.8	(稲田95.1)
(3) いじめはどんな理由でもいけない。	稲田97.5	全国96.6	(稲田93.6)

2、生活習慣

(1) 普段1日あたり1時間以上勉強する。	稲田59.0	全国62.5	(稲田42.7)
(2) 休みの日に1日あたり1時間以上勉強する。	稲田71.9	全国57.0	(稲田44.2)
(3) 家で自分で計画を立てて勉強している。	稲田72.7	全国62.2	(稲田56.6)
(4) 家で学校の授業の予習をしている。	稲田57.3	全国43.3	(稲田41.0)
(5) 家で学校の授業の復習をしている。	稲田71.0	全国55.2	(稲田55.0)
(6) 1日のテレビ等視聴時間(1時間未満)	稲田13.7	全国15.9	(稲田12.3)
(7) 1日のテレビ等視聴時間(1~2時間)	稲田26.5	全国26.9	(稲田23.8)
(8) 1日のテレビ等視聴時間(3時間以上)	稲田35.0	全国32.8	(稲田41.0)
(9) 1日のゲーム等の時間(1時間未満)	稲田35.9	全国45.1	(稲田38.6)
(10) 1日のゲーム等の時間(1~2時間)	稲田30.8	全国25.3	(稲田23.8)
(11) 1日のゲーム等の時間(3時間以上)	稲田17.9	全国16.0	(稲田18.8)

3、教科等

(1) 国語の勉強が好き	稲田56.4	全国58.3	(稲田46.7)
(2) 国語の授業の内容はよくわかりますが	稲田82.1	全国80.7	(稲田81.1)
(3) 読書がすき	稲田77.8	全国74.6	(稲田68.9)
(4) 算数の勉強が好き	稲田65.0	全国66.0	(稲田54.9)
(5) 算数の授業の内容はよくわかりますか	稲田81.2	全国80.2	(稲田79.5)
(6) 算数で問題に解き方や考え方が わかるようにノートに書いている	稲田82.1	全国81.0	(稲田81.9)

4、全体傾向と今後に向けて

<規範意識>

- いじめはどんな理由があっても許されない意識をもっている児童がより多くなっています。日常での指導や道徳、また個別面談等の取組やご家庭での日ごろからの声掛け等の成果です。自分のよさ、存在感を意識している子どもが多くなっていることにも注目です。引き続き子どもたちへの心の教育を大切にしていきます。

<生活習慣>

- 起床や就寝時間等、規則正しい生活をしている、また朝食の摂取率の回答がこれまで以上に増えています。全国比でも高く、日頃の家庭での配慮が結果にあらわれています。
- 家庭学習の習慣化、特に休日に一定時間の取組をする児童が増えています。また、復習を大切にしている児童の割合が過去5年で最高となっているなど、意識をもって取り組む児童が多く見られます。学力向上の基盤となるのが学習意欲と家庭学習です。学ぼうとする意欲を大切に、具体的な家庭学習の取組方法、個別の指導、授業との関連性を大切にした取組が必要になります。
- 1日のテレビの視聴時間、ゲーム時間が減少傾向に見られます。特に3時間以上の長時間にわたるものの低下が顕著です。先日、11月18日に南ブロック小中学校合同で「ノーテレビデー」が行われました。家庭の団らん、限られた時間を家族ぐるみでバランスよく過ごすことは、子どもの成長に大切なことです。ここは家庭での取組に負うところが大きいです。

<教科等の学習>

- 学習が好きな子どもたちが増えています。授業での「わかる喜び」「学ぶ楽しさ」を日頃から体感させる授業づくりの大切さ、また、しっかりとした学習内容の定着とくり返しがよいサイクルを生む結果となっています。

毎年お知らせしていることですが、学力学習状況調査からみえることは、客観的にとらえた子どもの学力、生活の一面が数値となってあらわれる子どもの実態です。そしてこの結果は、子どものよりよい成長と今後の授業等の改善に向けた手がかりとするものです。結果に一喜一憂するのではなく、学校がわかる楽しい力の付く授業で学習意欲を高めながら、学習習慣を確かなものとし、家庭と連携した取組につなげることが必要です。子どもたち一人一人のよさを生かした授業改善を基盤とした学校改善の検証、そして子どもの将来への「自立」に向けた素地となるような取組を進めます。

今後も結果をふまえ、「子どもが将来就業し、『自立』して生きる」「周囲とのかかわりでしっかり生きていく『共生』していくことにつながる取組」を大切に、具体的な指導の手立てを図り、改善につとめていきます。